語構成から見る中日のパソコン用語の特徴

1. はじめに
   1. 研究背景

現代社会では、学習や仕事などにコンピューターは欠くことができないようになっている。プロだけでなく、コンピューター用語は日常生活にも浸透してきた現状である。特に一衣帯水である中日両国は経済を含め、数多くのコミュニケーションを行っている。コンピューターを用いる場合がきっと多いと思われる。それで、中国語と日本語ができる、専門的なIT技術を持っている人材は数多くの中日関係の会社に求められている。だが、実際に日本語勉強の経験者でも、日本語環境のパソコンの操作はそう順調ではない場合がある。

* 1. 研究意義

上述のように、中日は漢字文化圏の国に属しても、日本語はカタカナ表記や省略の特徴があり、中国語は殆ど漢字表記の特徴がある。だから、中日両国の言語学者はパソコン用語のような専門用語を勉強する時に非常に大変であったという声もよく出てくる。更に、中日両国の熱いコミュニケーションに伴い、来中或いは来日の留学者や就職者が日々増えている現状で、パソコンを操作することを避けるわけにもいかなくなった。中日のパソコン用語の習得からそういう人々を支援するために、中日パソコン用語の比較を研究する必要があるではないかと思う。

* 1. 先行研究

中国語のパソコン用語については、楊（2000）は中国語のパソコン用語の源と分類について研究された。専門用語の面で「ハードウェア用語、ソフトウェア用語、インターネット用語」と分けられた。赵・徐（1998）によりパソコン用語が始めて中国に渡来した時に主に科学技術開発センターのような組織に利用され、抽象、正式という専門用語の特徴があることが分かってきた。特に揚・後藤（2003）により中国の大陸、台湾、香港のパソコン用語表記がそれぞれ違うことも始めて分かってきた。

日本語のパソコン用語の特徴については、後藤・深澤、・窪田（2002）はコンピューター画面出てくる言葉は主に中上級レベルの語であること、その多くは漢語、外来語、省略語であったり、カタカナ表記、アルファベット表記が混用されたりすることを明らかにされた。「一語、複合語」という大まかな語構成の分類を提出された。同じように、深川・窪田・深澤（2007）は実際にソフトウェアに出てくるIT用語は漢語が４割、外来語が３割を占めていることを改めて具体的に提出された。そして省略の傾向があることが分かってきた。もっと具体的な分類については濱田・深澤・翁（2012）により提出された「漢語、和語、外来語、混種語」である。日本語のパソコン用語はほぼこの4種類の語により構成されたことが分かってきた。

以上で、筆者が集めた資料の中で中日のパソコン用語比較についての研究はなかった。別々に一言語の研究或いは中英、日米の比較研究をされた。それらを補充することで、時代に伴い、前の結論を検証する気持ちを持ちながら、本研究を進みたいと思う。

* 1. 研究方法

本稿では、中日のパソコン用語に対し、語構成の視点から中日のパソコン用語の特徴を見出す。計量語彙論の方法で新しい言語事実を明らかにしたいと思う。肝心な研究対象が『日経パソコン用語事典』（2011版）から抽出した中国語1690語と日本語1773語である。まず中国語のパソコン用語の特徴を見出し、それから日本語のパソコン用語の特徴を見出していく。最後に中日のパソコン用語の特徴を見合わせ、相違点をまとめる。そしてこの現象の原因にも触れようとする。そういう流れで展開したいと思う。

1. 扱うべきデータ

パソコン用語と言っても実は大幅な範囲があり、強いて言うと、パソコンはITという分野に属する。だが、ITというデジタルカメラやスマートフォンや家電やインターネットなど様々な分野が混じられている。即ち、相互に影響を与え、知識が共通している。今の時代に、デジタルカメラでも、スマートフォンでも、パソコンに繋げることが一般になり、インターネットを経由し、家電などをコントロールすることも可能になる。ついでに、そのような家電が「スマート家電」と呼ばれることになる。

ということで、今回の研究が扱うべき語は大幅になるけど、日経BP社により、『日中パソコン用語辞典』が出版され、パソコン、デジタルカメラ、スマートフォンなどの電子製品に関わる用語が含めされている。中国化学工業出版社との連携で、翻訳版の『中英日電脳用語辞典』も出版された。本稿での全ての研究はこの翻訳版の2011版を基に展開していく。

その辞典のおかげで、扱うデータが大幅に絞っているけど、全体4560語もあり、そしてパソコン用語だけでなく、ほかの専用語も混じっているので、研究の一般性を最大に保つ上で、4560語から1690の中国語と1773の日本語を抽出することになった。「中国語」―「日本語」という対訳の原則であったけど、中国人に対する日本語原版から翻訳され、中国語を索引にしたせいで、一つの中国語は複数の日本語が対訳されている。例えば、「解压缩」という中国語でも、「伸長」、「展開」、「解凍」という三つの日本語が対照されている。そういうわけで、日本語が中国語より多くなった。そして語を選ぶ標準は出来るだけパソコンに関わる語を選ぶことである。日常生活に耳に慣れる語と慣れない語両方とも揃えている。

そして、データを数量化するために全ての語を「中国語」―「日本語」のような形式でエクセルに入力しておき、分析プロセスが便利になることである。

1. 中国語のパソコン用語の特徴
   1. 構成パターン
2. 日本語のパソコン用語の特徴
   1. 構成パターン
3. 中日のパソコン用語の比較
   1. 構成要素の相違点
   2. 構成パターンの相違点
4. 終わりに
   1. 結論
   2. 今後の課題